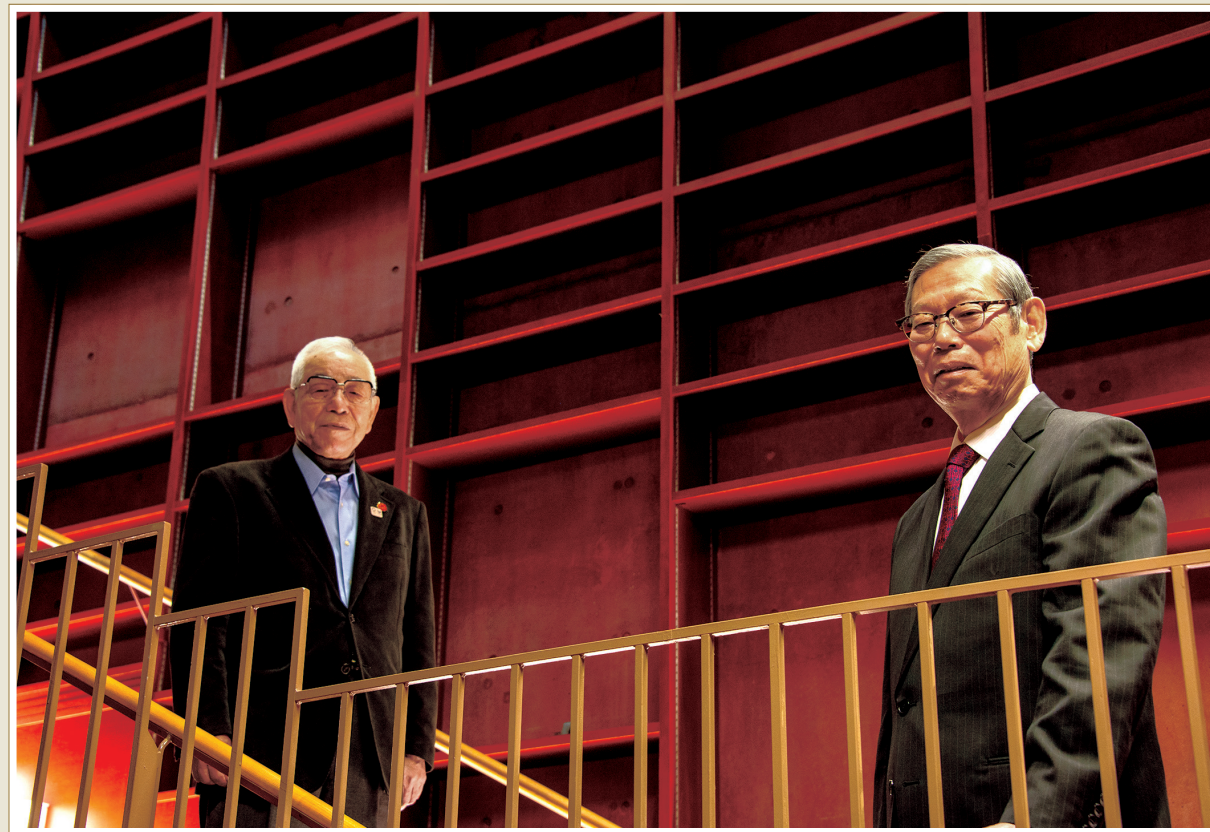




子どもの見守り事業
町田第二地区協議会

子ども達の安全・安心を守るため、地域で一体となって取り組んでいる通学路の見守り。毎朝の登校時だけでなく、時期を決めて下校時にも一斉見守りを行っている。

まちの安全・安心を守る見守りの目は、決して絶やしてはいけない。——中一登氏



色々なノウハウを持った方に出会える。それが地域活動の醍醐味ですよ。——大倉博志氏



「高ヶ坂・成瀬フェスタ2020」
高ヶ坂・成瀬地区協議会

コロナ禍でも住民を元気づけたいと企画したイベント。オンライン配信を活用した演奏会など、感染症対策を取り入れたイベント実施を試行錯誤した。

コロナ禍に見舞われた2020年。それでも何とか地域の活動を続けようとした。その背景には何が？

中：コロナ禍では人が集まることもできず、当然夏祭りも中止。地域の人たちの顔を見ることができなくなっていました。集まる場もなく、地域をつなぐ回覧板も回せない。私は地域のコミュニティが崩れてしまうのではないかと、とにかく不安でした。実は、私のふるさとで、小学生が下校時に犯罪にあい、命を落とした事件がありました。まちの安全・安心を守る見守りの目は、決して絶やしてはいけない。その思いが、コロナ禍であっても私が活動を続けている理由です。



見守りは毎朝？

中：緊急事態宣言により小学校が休校となった時を除き、学校がある日は毎朝、交差点に立っています。子ども達の安全安心のために、欠かすことのできない活動です。見守り活動では、横断時の安全確保だけでなく、危ないことをしている子どもを注意したり、元気のない子どもに声掛けをしたりなど、まち全体で子ども達の成長を見守っています。

コロナ禍での変化は？

中：テレワークなどで自宅にいる大人たちが、見守りに参加してくれるようになったことです。現在、町田第二地区協議会の、約250名の方が見守り活動に参加していますが、今後、仲間がさらに増えていくと良いですね。

高ヶ坂・成瀬地区では？

大倉：春の緊急事態宣言から軒並みイベントは中止になりましたが、夏の終わりごろには、感染の仕組みや感染防止策がわかるようになりました。このままずっと何もしないのではなく、きちんと対策をして工夫すれば、何かできるのではないかと。そこで企画したのが、多世代交流の拠点、コミュニティセンターで開催する「高ヶ坂・成瀬フェスタ」です。コロナ禍で閉塞感のある人々の心を、少しでも癒したい思いもありました。

企画は順調に進みましたか？

大倉：感染症対策のため、ホール会場で生の演奏をいつもの通り聴くということは難しい。10月から12月にかけて感染防止のガイドラインに沿った様々な試行錯誤を重ね、屋外の活用や、Zoomを使った配信のほか、ステージ上にシールドをつくる対策も行いました。面白いもので、地域には音楽配信の専門家の方がいらして助けてくださったり、シールドをつくる案については、釣り師の方にお知恵をいただいたりしました。いろいろなノウハウを持った方に出会える。それが地域活動の醍醐味ですよ。

今年3月に開催予定だった高ヶ坂・成瀬フェスタは、折しも緊急事態宣言により中止となってしまいましたね。

大倉：コロナ禍でイベントを企画するにあたり、あらかじめ中止の基準、条件を決めておきました。それと、万が一クラスターが発生したとしてもスタッフを責めない。そうしないと、怖くて何もできなくなってしまいますから。

退職直後は、自宅でパソコンのセットアップもできず、結局会社の部下に手伝ってもらっていたという大倉さん。急速なデジタル化の進展で、「今ではスマホも使いこなす

ますよ」と目を細めた。

最後にお二人から一言ずつ、地域に対する想いを語ってもらった。

大倉：今は退職してから数十年を生きる時代です。仕事を終えてからも、自分のやりたいことや想いを実現し続けられる、そんな場所が地域です。

中：「1人はみんなのために、みんなは1人のために」が地域コミュニティについての私の信条。多世代のコミュニティを作れるよう、私自身は「かわいい年寄り」になって、次世代につなげていきたいですね。

